

「多様な供給体制とスマートな消費行動を持つ エネルギー最先進国」へのアクションプラン

平成25年2月18日
経済産業大臣 茂木敏充

東日本大震災や、新興国の台頭を中心とするエネルギー需要の増大など激変する世界情勢の中、我が国は新たなエネルギー制約に直面。エネルギー源の多角化、低廉な「生産(調達)」と、最適かつ効率的なエネルギーの「流通」、スマートな「消費」により、「多様な供給体制とスマートな消費行動を持つエネルギー最先進国」を目指す。

(生産(調達)面での課題)

- ・再生可能エネルギーの導入は依然、低水準
- ・国際的に高価格な燃料調達(LNG等) 等

(流通面での課題)

- ・電力会社の区域を越えた効率的な需給調整ができていない
- ・一般家庭では電力会社を選べない 等

(消費面での課題)

- ・多様な料金体系など省エネの手段が足りない、選べない
- ・住宅・ビルのエネルギー消費は増加 等



多様な供給体制とスマートな消費行動を持つエネルギー最先進国

新たなエネルギー政策の確立へ向け、生産(調達)・流通・消費各面において、エネルギー制約の克服とコスト低減への取組に直ちに着手。

1. 生産(調達)段階

＜多様なエネルギー源の確保＞

(1)再生可能エネルギーの最大限の導入

①導入拡大のための規制・制度改革(環境アセスの迅速化等)

②相対的にコストの低い風力・地熱の導入基盤強化(系統整備等)

(2)安全が確認された原子力発電の活用

(3)世界最高水準の高効率火力発電(石炭・LNG)を環境に配慮しつつ導入

＜多角的な調達＞

(1)官民挙げた低廉なLNGの確保

(2)メタンハイドレートなどの国内資源開発の推進

2. 流通段階

(1)電力システム改革

①小売・発電の全面自由化

②送配電部門の一層の中立化

③広域系統運用の拡大

(2)電気料金の厳正な査定(料金への燃料コスト低減努力の反映等)

3. 消費段階

(1)工場への先端最新設備・省エネ設備の導入など産業の競争力強化と省エネルギーを推進

(2)トップランナー制度を通じて、自動車や家電にとどまらず、今後、住宅・ビル等の省エネルギーを強化

(3)需要者が供給側の状況に応じて需要を選択できる「デマンドレスポンス」など、効率的なエネルギーマネジメントシステムを普及